

Best Available Copy

JP2001214616

Publication Title:

FENCE WEIGHT

Abstract:

Abstract of JP2001214616

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a fence weight having high strength and favorable durability. **SOLUTION:** A recess 2 for a handhold usable for lifting up the fence weight is formed at the central part of the under face of a steel block. A projection 3 having a shape and dimensions to fit in the recess 2 is formed at the central part of the upper face and insertion parts 4 for supports of a fence are provided on the upper face.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>

Best Available Copy

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-214616

(P2001-214616A)

(43)公開日 平成13年8月10日(2001.8.10)

(51)Int.Cl.⁷

E 04 G 21/32
E 01 F 13/00
E 04 H 17/22

識別記号

301

F I

E 04 G 21/32
E 01 F 13/00
E 04 H 17/22

テ-マコト^{*}(参考)

C 2D101
301 2E142

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全4頁)

(21)出願番号

特願2000-22511(P2000-22511)

(22)出願日

平成12年1月31日(2000.1.31)

(71)出願人 592114389

中部鋼板株式会社

愛知県名古屋市中川区小碓通5丁目1番地

(72)発明者 大関 昭夫

愛知県名古屋市中川区小碓通5丁目1番地

中部鋼板株式会社内

(72)発明者 船木 宏

愛知県名古屋市中川区小碓通5丁目1番地

中部鋼板株式会社内

(74)代理人 100075476

弁理士 宇佐見 忠男

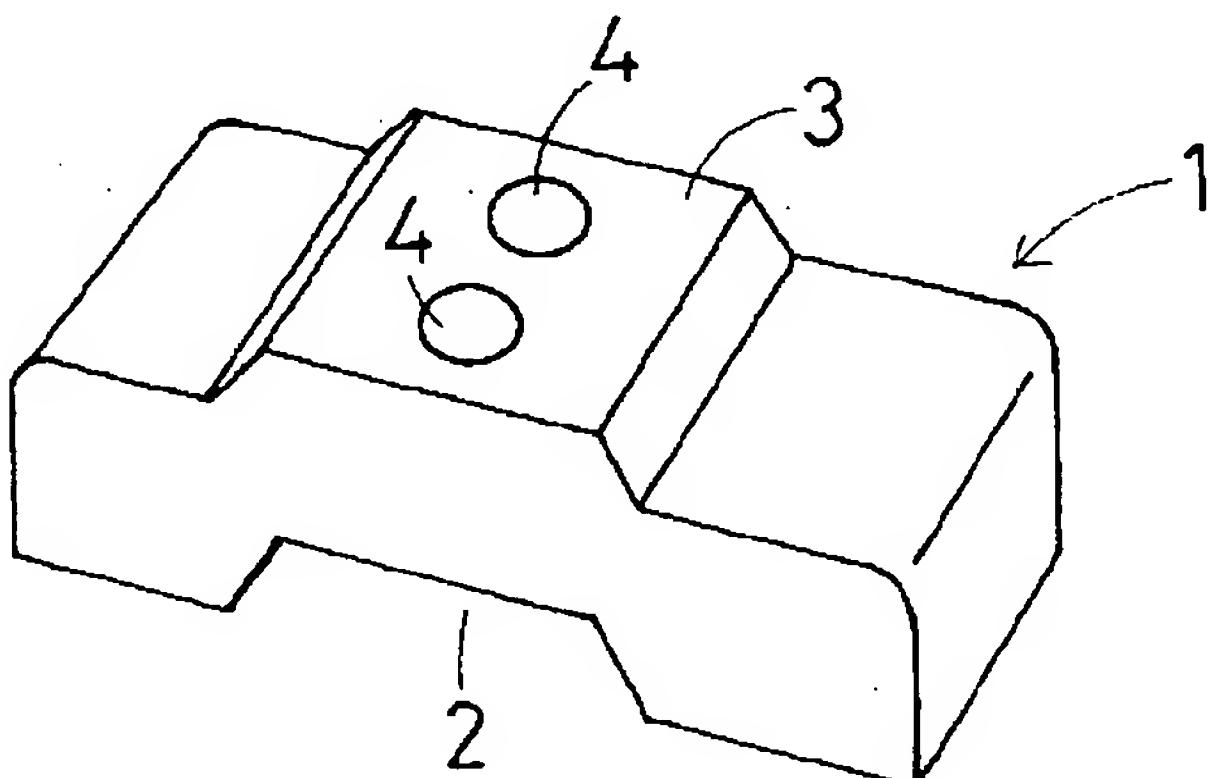
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 フェンスウェイト

(57)【要約】

【課題】本発明の課題は、高強度かつ耐久性の良好なフェンスウェイトを提供することにある。

【解決手段】鋼鉄のブロックの下面中央部に持上げる時の手掛けりのための凹部2を設け、上面中央部には該凹部2にはまり込むような形状寸法の凸部3を設け、上面にフェンスの支柱の挿入4を設けたフェンスウェイト1を提供する。



1:フェンスウェイト 2:凹部 3:凸部
4:挿入孔

【特許請求の範囲】

【請求項1】鋼鉄のブロックの下面中央部には凹部が形成され、上面中央部には凸部が形成され、更に上面から二個以上のフェンスの支柱の挿入孔が設けられていることを特徴とするフェンスウェイト

【請求項2】該凸部は該凹部にはまり込む形状寸法にされている請求項1に記載のフェンスウェイト

【請求項3】該挿入孔は該ブロックの中央部に設けられている請求項1に記載のフェンスウェイト

【請求項4】該挿入孔は該ブロックの両端部に設けられている請求項1に記載のフェンスウェイト

【請求項5】該挿入孔は該ブロックの中央部および両端部に設けられている請求項1に記載のフェンスウェイト

【請求項6】該挿入孔には大径孔と小径孔とがある請求項1～4に記載のフェンスウェイト

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は工事現場等に設置されるフェンスを支持するウエイトに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のフェンスウェイトとしては、コンクリートブロックあるいは鋳物ブロックが使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】コンクリートブロックは耐久性が低く割れ易いし、低比重のために大重量を得るには大容量となり、保管や運搬に不便であり、また見栄えも良くない。更に使用後は産業廃棄物となって処分する必要がある。鋳物ブロックは鋳型が必要であり、少量生産する場合には割高になるし、また使用後の鋳型は産業廃棄物として処分する必要がある。更に鋳物ブロックは耐衝撃性が低い。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を解決するための手段として、鋼鉄のブロックの下面中央部には凹部(2)が形成され、上面中央部には凸部(3)が形成され、更に上面から二個以上のフェンス(5)の支柱(6)の挿入孔(4, 4)が設けられているフェンスウェイト(1)を提供するものである。該凸部(3, 13)は該凹部(2, 12)にはまり込む形状寸法にされていることが望ましい。該挿入孔(4, 14, 15)は該ブロックの中央部に設けられているか、またはブロックの両端部に設けられているかまたはブロックの中央部および両端部に設けられていることが望ましい。該挿入孔には大径孔(14)と小径孔(15)とがあることが望ましい。

【0005】

【作用】本発明のフェンスウェイト(1)は地上に設置してフェンス(5)の支柱(6)の下端部を該フェンスウェイト(1)の上面の挿入孔(4, 4)に挿入する。該フェンスウェイト(1)を持上げる時は下面の凹部(2)を手掛けたりと

することが出来、また二つ以上積重ねた場合は下のフェンスウェイト(1)の凸部(3)が上のフェンスウェイト(1)の凹部(2)にはまり込んでずれ防止を行なう。本発明ではフェンスウェイト(1)として鋼鉄のブロックを使用する。該鋼鉄のブロックは製鋼段階で製造されるスラブ、ブルーム、ビレット、インゴット等の鋼塊よりガス溶断で切出される。したがって加工費が少なく安価に提供され見栄えも良い。更に鋼鉄ブロックは高比重(密度約7.8 g/cm³)であり、コンクリートブロックと比べると約3倍以上の比重があり、それだけ体積を縮小してコンパクトにすることが出来、設置、運搬、保管等のスペースを縮小出来る。また鋼鉄ブロックは高強度であり、自動車等が衝突しても破碎されず、安全性が高く、かつ適当な表面処理を行なうと、耐久性も非常に優れたものとなる。そして廃却時には鉄原料としてリサイクルが出来る。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の一実施例を図1～図3に示す。図において、(1)は鋼鉄ブロックからなるフェンスウェイトであり、下面中央部には凹部(2)が設けられ、上面中央部には凸部(3)が設けられ、該凸部(3)上には二個の挿入孔(4, 4)が設けられている。

【0007】該フェンスウェイト(1)は下面の凹部(2)を手掛けたりとして手で容易に持上げることが出来、設置や運搬が容易である。また図2に示すように該フェンスウェイト(1)の二つ以上を積重ねた時、下のフェンスウェイト(1)の凸部(3)が上のフェンスウェイト(1)の凹部(2)にはまり込み、運搬や保管時のずれ防止になる。

【0008】上記フェンスウェイト(1)は図3に示すように地上に設置され、工事用のフェンス(5)の両側の支柱(6)の下端部を該フェンスウェイト(1)の挿入孔(4)に挿入して該フェンス(5)を該フェンスウェイト(1)によって支持する。

【0009】図3に示すようにフェンス(5)を二つ並べる場合には、三個のフェンスウェイト(1)を使用し、例えば右側のフェンス(5)の両側の支柱(6)は中央のフェンスウェイト(1)の右側の挿入孔(4)と右側のフェンスウェイト(1)の左側の挿入孔(4)に挿入し、左側のフェンス(5)の右側の支柱(6)は中央のフェンスウェイト(1)の左側の挿入孔(4)に挿入し、左側の支柱(6)は左側のフェンスウェイト(1)の右側挿入孔(4)に挿入する。

【0010】フェンスウェイト(1)は上記したように鋼鉄のブロックからなるが、該鋼鉄のブロックの表面にはショットブラスト、亜鉛メッキ、鍛止め塗装等の表面処理が施されてもよいし、更に塗料によって適当な色彩、蛍光色彩等が施されてもよい。更に該鋼鉄のブロックの表面には、ウレタン樹脂、エポキシ樹脂、アクリル樹脂、塩化ビニル樹脂、ポリエステル樹脂、ポリアミド樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレン等の合成樹脂被覆が

施されてもよいし、セラミック被覆が施されてもよい。

【0011】図4には他の実施例が示される。この実施例のフェンスウェイト(11)は鋼鉄ブロックからなり、下面に凹部(12)、上面に凸部(13)が設けられ、該凸部(13)は該凹部(12)にはまり込む形状寸法にされており、上面中央部には二つの大径孔(14, 14)、左側には二つの小径孔(15, 15)、右側には一つの小径孔(16)が設けられている。

【0012】上記フェンスウェイト(11)にあっては、前実施例と同様にフェンス(5)の支柱(6)が挿入されるが、フェンス(5)の種類により支柱(6)の径が異なる場合でも大径孔(14)と小径孔(15)とで対応出来る。また二つ並べてフェンス(5)設置する場合、支柱(6)の径が同じ大径であれば中央部の二つの大径孔(14, 14)を利用し、支柱(6)の径が異なり大径と小径とであれば、中央部の二つの大径孔(14, 14)のいずれかと左側の二つの小径孔(15, 15)のいずれかを利用し、更に支柱(6)の径が同じ小径であれば、左側の二つの小径孔(15, 15)を利用するか、あるいは左側の二つの小径孔(15, 15)のいずれかを利用する。小径孔(16)はアンカー(17)打込み用の孔として使用されるが、該小径孔(16)をフェンス(5)の支柱(6)挿入用に使用してもよい。

【0013】

【発明の効果】本発明のフェンスウェイトは鋼鉄ブロックからなるので、見栄えも良くかつ高強度で耐久性にも優れる。また高比重であるからコンパクトになり、設置、運搬、保管等のスペースも縮小出来る。更に本発明のフェンスウェイトは下面の凹部を手掛けとして手で持上げることが出来るから、設置や運搬が容易であるし、積重ねた時、下のフェンスウェイトの凸部が上のフェンスウェイトの凹部にはまり込んでずれ防止を行なうから運搬や保管に便利である。

【図面の簡単な説明】

図1～図3は本発明の一実施例を示すものである。

【図1】斜視図

【図2】積重ね状態図

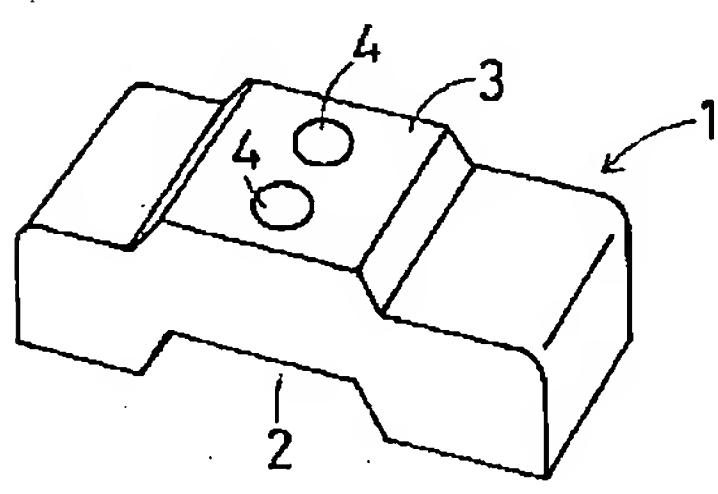
【図3】使用状態説明図

【図4】他の実施例の斜視図

【符号の説明】

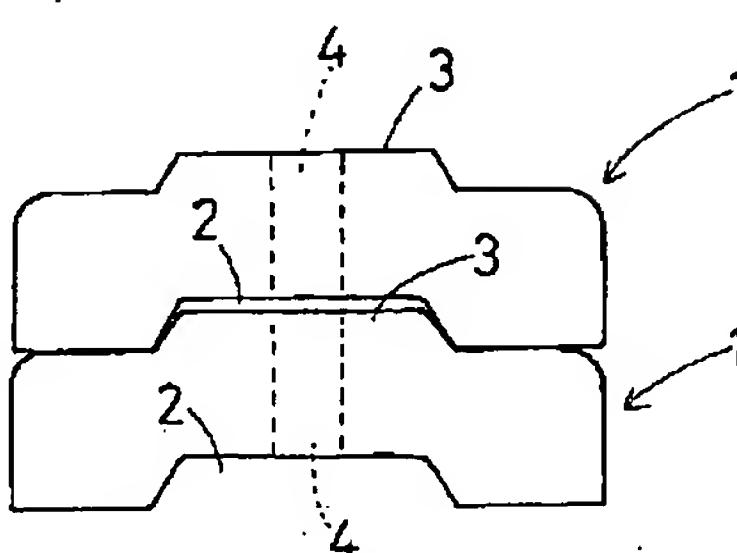
| | |
|-----------|----------|
| 1, 11 | フェンスウェイト |
| 2, 12 | 凹部 |
| 3, 13 | 凸部 |
| 4, 14, 15 | 挿入孔 |
| 5 | フェンス |
| 6 | 支柱 |

【図1】

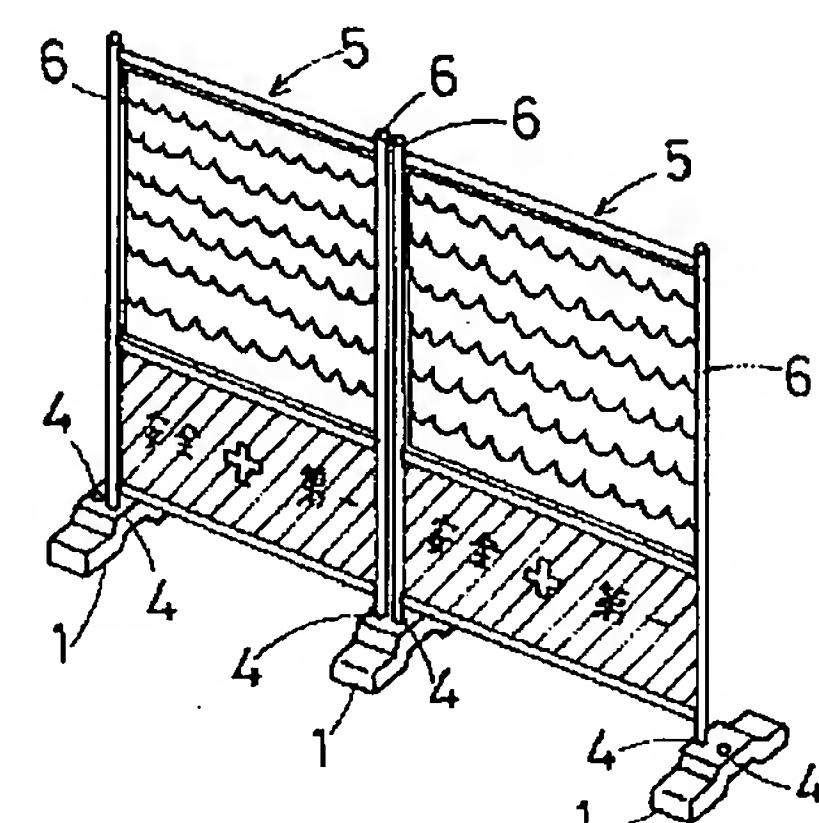


1:フェンスウェイト 2:凹部 3:凸部
4:挿入孔

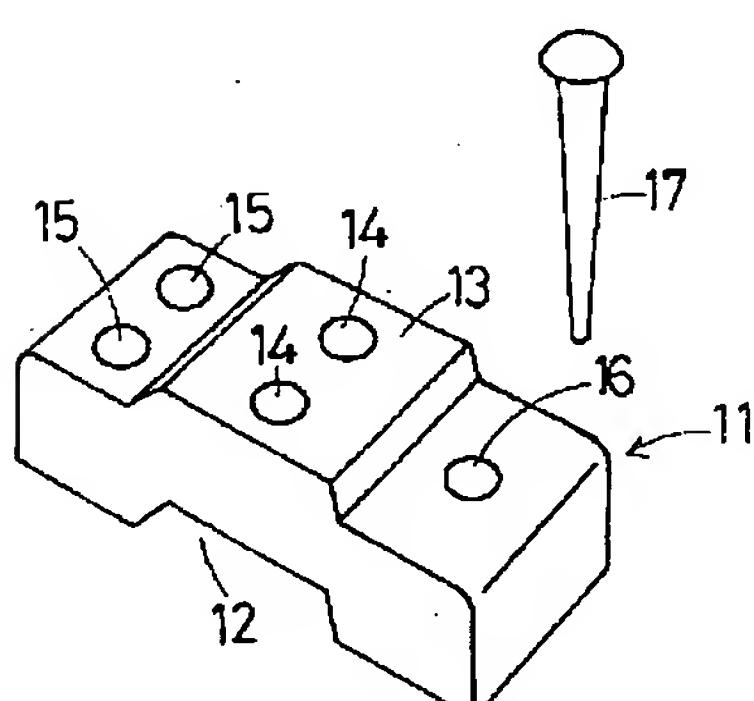
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 榊原 健司
愛知県名古屋市中川区小碓通5丁目1番地
中部鋼鉄株式会社内

F ターム(参考) 2D101 CA11 EA09 FA11 FA32 FB24
GA04
2E142 AA01 EE02 EE12 HH12 JJ01

Rest Available Copy